

DXを通じたより良い社会の構築とは

FUJITSU JOURNAL / 2021年5月11日



この記事はFujitsu Blogに掲載された「[Fujitsu ActivateNow: Building a better society through digital transformation](#)」の抄訳です。

目次

- [ニューノーマルにおけるビジネスや社会のありかたを再構想](#)
- [責任あるビジネスを支えるDX](#)
- [7つのテクノロジーが支えるDXの事例](#)

ニューノーマルにおけるビジネスや社会のありかたを再構想

この1年のコロナ禍における出来事は、グローバル社会の脆弱性を浮き彫りにしました。しかし、新しい年に明るい兆しが見える中、ビジネスリーダーの多くが、COVID-19がもたらした新しい世界で、企業が担う役割について構想しています。

富士通は、お客様とともに、ニューノーマル（新常態）におけるビジネスや、社会のありかたを再構想(Reimagine)し、より良い社会を創造していきたいと考えています。

昨年秋に開催した弊社のグローバルフラッグシップイベント「Fujitsu ActivateNow 2020」では、このテーマについて富士通代表取締役副社長COO、CTOの古田英範が講演しました。

その中で、古田は次のように述べています。「世界が直面する複雑な問題に立ち向かうためには社会に対する信頼を築くこと、そして、社会の中で企業が果たすべき目的、すなわち、パーパスドリブンな（企業の目的意識を起点にした）アプローチが必要です。

パーパスとそれに基づくビジョン、これは当社が向かうべき方向を示す羅針盤であり、ビジネスの目標と社会課題の解決に向けた目標を結び付けるものだと考えています。」

つまり、企業は株主だけではなく、より幅広く社会に利益をもたらす方法を考察するべきだ、ということです。さらに古田は次のように続けました。

「急速な経済活動の拡大、生活の向上に伴って生まれた未解決の社会課題は、まだ数多く残っています。デジタルサービスの急速な普及は、社会に対する信頼に大きな混乱を引き起こしています。みなさんは、インターネット上のデータを信頼できるでしょうか？AIの下した判断を信頼できますか？

富士通は、責任ある企業として、複雑な社会課題に立ち向かい、ますます重要となる信頼関係の構築に向けて、真剣に取り組む必要があると考えています。」

責任あるビジネスを支えるDX

富士通のパーパスは、イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくことです。これについて、古田は次のように説明しています。

「富士通社内におけるDXの実践を通じ、お客様のニーズをより良くサポートすることが可能になります。

富士通は、以下の6つのバリューを通じて、お客様の求める価値を実現するDXを追及します。

- 安心・安全なモビリティ社会を

- 健康と暮らしに豊かさを
- システムにモダナイゼーションを
- ものづくりに革新を
- パーソナライズド・エクスペリエンスを
- 金融サービスに安心と利便性を

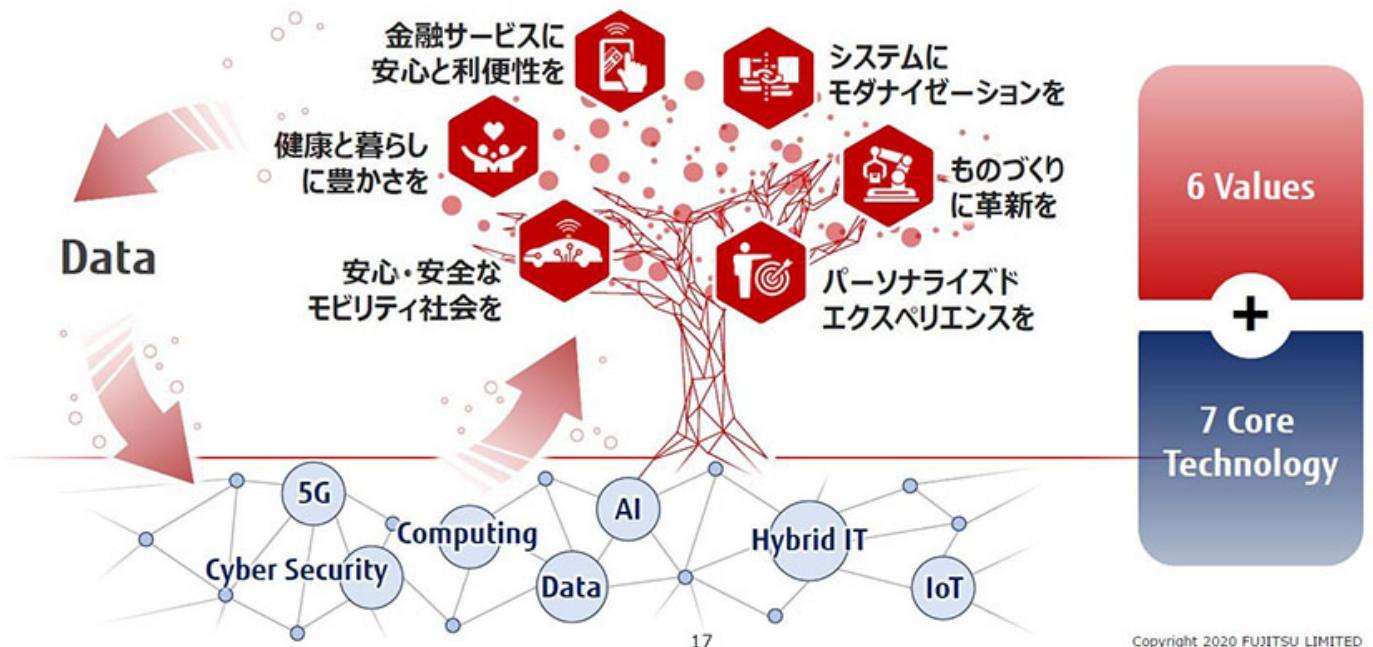
そして、その中核を成す7つのテクノロジーがこれらのバリューを支えています。

- Cyber security
- 5G
- Computing
- Data
- AI
- Hybrid
- IoT

それぞれのテクノロジーは単独でも重要な要素ではありますが、それを組み合わせ、新しい価値として提供することで、お客様にとってより高い価値をご提供できると考えています。」

お客様・社会が求める価値を実現するDX

FUJITSU



Copyright 2020 FUJITSU LIMITED

お客様・社会が求める価値を実現するDX

7つのテクノロジーが支えるDXの事例

これらのDXのコアとなるテクノロジーを組み合わせれば、私達が直面しているいくつかのビジネスや社会課題解決の糸口を見出すことができるようになるでしょう。

例えば、量子現象に着想を得たコンピューティングテクノロジーで、創薬を飛躍的にスピードアップさせた事例があります。

富士通の「デジタルアニーラ (Digital Annealer)」は、疾病の治療に有効な分子を迅速に見つけ出すことを可能にしました。従来であれば、数カ月、数年を要していた何十億もの分子の初期検索が、僅か10分で発見できるようになりました。

その結果、全体として、創薬の初期段階にかかる時間を2~4年からわずか8カ月に短縮しました。

富士通はデング熱のような感染症への対策のため、2020年にパートナー企業とともに新薬発見プラットフォームのパイロット試験を開始しています。

パンデミックが予測され、世界中の研究者達がCOVID-19向けのワクチン開発にしのぎを削っている中、デジタルアニーラが創薬プロセスの短縮に貢献できるでしょう。

その他に、COVID-19の感染爆発が起こった時に、市場ニーズの急激な変化にビジネスモデルを迅速に適応させたMars Petcare社の事例があります。

Mars Petcare社は、中国に拠点を置き、世界60か国でペットケア製品等、50以上のブランドを展開している企業です。このコロナ禍で、俊敏に事態に対処すること (agility) に焦点をあて、お客様のニーズを迅速に把握し、そのニーズに対して電光石火のような対応で、たった15日間で、D2Cビジネス (direct-to-consumer business) を立ち上げました。

それだけではなく、さらにMars Petcare社は、パンデミック後のデジタルトランスフォーメーションの可能性や、それがどのように社会に役立つかについても考えています。

Mars Petcare社のCIOであるMiao Song氏は次のように提言しています。

「未来は予測不可能です。しかし、同時に未来は明るいと感じました。なぜならば、テクノロジーを活用することで多くの機会が生まれており、人々の生活を根本から変えているからです。」